

令和 2 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 現代マネジメント学部

フリガナ ミズノ ヒデオ
氏名 水野 英雄

研究期間 令和 2 年度

研究課題名 新型コロナウイルスの観光産業に与える影響とワーケーションの促進に関する研究

研究組織

| | 氏名 | 学部 | 職位 |
|-------|-------|------------|-----|
| 研究代表者 | 水野 英雄 | 現代マネジメント学部 | 准教授 |
| 研究分担者 | | | |
| 研究分担者 | | | |

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

「働き方改革」においてテレワーク・リモートワークの積極的な導入が求められてきたが、これまでは企業が労務管理の困難さやコスト面から慎重であり、普及しなかった。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染防止のためにテレワーク・リモートワークの導入が急速に進み、仕事の場所の制約がなくなったことで「ワーケーション」と呼ばれる仕事と休暇を兼ねて旅先で仕事をする新しい働き方が提案されるようになった。新型コロナウイルス感染症によって観光産業が厳しい状況に置かれている中で、政府がワーケーションに着目して推奨しており、関係者の関心も高まっている。そのような状況の中で、ワーケーションの導入における課題を整理し、効果的な利用のための方策について検討する。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

本研究ではワーケーションのために観光産業に求められる機能と役割について整理し、ワーケーションによって観光産業の活性化を図る方策について考察する。また、ワーケーションにより企業の生産性を高め、かつ地域への経済波及効果を拡大する受け入れ促進策について検討する。ワーケーションのための施設整備や利用促進に積極的に取り組んでいる和歌山県の白浜町と田辺市、長野県の軽井沢町と千曲市において現地調査を行った。現地調査では長期滞在のための宿泊施設、コワーキングスペース等を訪問し、施設の利用状況の調査と関係者へのインタビューを行った。また、長期滞在を支える商業施設や観光施設等についても調査した。

新型コロナウイルス感染症により地方に事業所を設けたり本社を移転する企業もあり、訪問して調査と関係者へのインタビューを行った。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

新型コロナウイルス感染症によりインバウンドが激減したことで政府や自治体はワーケーションを新たな旅行機会の創出や観光需要の平準化のために推進している。緊急事態宣言で国内旅行も制限され厳しい状況にあるホテル等においては新たな旅行商品としてワーケーションを積極的に提供し始めている。同様の目的のために業務としての出張の前後に観光を楽しむブレジャーも推奨している。ワーケーションは個人にとっては働き方改革として働く場所や時間の自由化、企業にとっては創造性の高い仕事での生産性の向上やオフィス等のコスト削減、地域にとっては関係人口の増加、二拠点居住者や移住者の増加、企業誘致による地域振興につながる。そのため和歌山県や長野県等ではこれまでも地方創生のために積極的に推進しており、ワーケーション自治体協議会も設立され、コロナ禍で参加する自治体も急増している。

ワーケーションに関しては、①仕事への貢献や成果の評価が困難、②ワーケーションに適した職種に限られる、③事故に遭った場合の補償、④旅行に会社の経費を使用する正当性、⑤家族が同行することへの理解、という課題があり、明確な基準を定めていない企業が多いため積極的に推進する段階には至っていなかった。①②に関しては裁量労働制とすることや一般の職種であっても研修等をワーケーションにて実施する。③に関しては会社行事や通常の出張における事故で労災が適用されるのと同様に扱う。④に関しては福利厚生として会社内の娯楽施設や会社外の保養施設等を整備する代わりと位置付けることや「ワーケーション控除」のような税制上の優遇措置を創設する。⑤に関してはコロナ禍を契機に企業にとっても東京への一極集中に対する危惧から地方への分散が必要であること、ワーケーションで家族も含めて長期に滞在することで地元への経済波及効果の拡大や将来的な二拠点居住者や移住者の増加が期待できる。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

| | | | |
|------------|----------|--------|----------|
| ①観光 | ②ワーケーション | ③テレワーク | ④リモートワーク |
| ⑤新型コロナウイルス | ⑥二拠点居住 | ⑦企業誘致 | ⑧地方創生 |

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

水野英雄「新型コロナウイルスと観光ワーケーションによる新たな観光ニーズの創造」『中部経済新聞』「オープンカレッジ」中部経済新聞社、令和2年6月25日、p.10
水野英雄「出張によるワーケーションー生産性と創造性の向上への働き方ー」『中部経済新聞』「オープンカレッジ」中部経済新聞社、令和2年10月26日、p.6
中日新聞の「<岐路の旅館@蒲郡 コロナを越えて> (番外編) 識者に聞く 椋山女学園大・水野英雄准教授(52)」(令和2年12月22日朝刊東三河版14面)に新型コロナウイルスのもとでの観光産業に関するインタビュー記事が掲載された。
本研究の成果による論文は執筆中である。また、本研究の知見は現在ゼミ生が取り組んでいる愛知県内の新都市でのアスレチック施設を活用したチームビルディング研修や清須市での清洲城を活用したMICEとしての「清洲会議」の実現に向けて活用することが出来、観光まちづくりに貢献する。